

事業完了報告書

調査研究期間等

調査研究期間	委託を受けた日 ~ 平成29年3月16日
調査研究事項	《委託研究 I》 【大阪市立天満中学校】 ・学習指導に関すること 【大阪市立東生野中学校】 ・学習指導に関すること 【大阪市立天王寺中学校】 ・学習指導に関すること 【大阪市立文の里中学校】 ・学習指導に関すること
調査研究のねらい	【大阪市立天満中学校】 【大阪市立東生野中学校】 【大阪市立天王寺中学校】 【大阪市立文の里中学校】 別紙のとおり
調査研究の成果	【大阪市立天満中学校】 【大阪市立東生野中学校】 【大阪市立天王寺中学校】 【大阪市立文の里中学校】 別紙のとおり

1 調査研究のねらい

【大阪市立天満中学校】(学習指導に関すること)

各教科の年間指導計画にもとづき、生徒個々の課題に応じて、効果的な学習指導のあり方について研究し、生徒の国語力の向上と基礎的・基本的な学力の向上に資する。

(課題)

- ・高齢者に対する効果的な学習指導
- ・日本語の習熟度に課題のある生徒に適した学習指導
- ・国籍や年齢の差が原因となって起こる生徒間の学習課題への対処

(その課題を持つこととなった背景等)

- ・在籍生徒の年齢が18歳から84歳と幅広く、学習内容への興味関心の示し方や、習熟の状況の個人差が大きいため、教科指導の工夫を要する。
- ・国籍など様々な背景を持つ生徒が在籍しており文化や言語の違いによる意思相通が困難な場合がある。

【大阪市立東生野中学校】(学習指導に関すること)

生徒の学力実態を正確に把握し、その学力に応じた教育内容と教材を用意するとともに、効果的な指導方法についての研究と自ら学ぶ意欲を育てる教育活動の研究をする。

(課題)

- ・国語能力の向上と興味・関心に応じた教材づくり
- ・日本語の習得度が低い生徒に適した教科指導
- ・体育・美術・家庭科の授業での高齢者への教材の工夫

(その課題を持つこととなった背景等)

- ・70歳以上の生徒が全体の約55%を占め、また韓国・朝鮮にルーツのある生徒は約85%を超え、生徒の日本語取得状況や学習の習熟度に差がある。そのため、個に応じた効果的な指導方法を研究する必要がある。

【大阪市立天王寺中学校】(学習指導に関すること)

国籍や年齢層の多様化、さらに異なった生活習慣などが近年の生徒の主な特徴となっている。また、一様に義務教育未修了者または実質的に十分な教育を受けられないまま学校の配慮等により中学校を卒業した者であり、生活に必要な学力・日本語習得が不十分であるため、生徒のほとんどは、日常生活・就労に困難を感じている。本校では、そのような生徒実態に鑑み、まず日本語表現力を高めるための学習をすることを行い、より豊かな言語感覚の習得をめざす。そのため、基本的な日本語理解を高める指導のあり方について調査研究し、生徒の学力向上に資する。

(課題)

- ・教科学習に必要な日本語学習指導
- ・日本社会における基礎的な学力指導と日本社会で生活に必要な情報の伝達
- ・日本語でのコミュニケーション能力をつける指導

(その課題を持つこととなった背景等)

- ・義務教育未修または実質的に十分な教育を受けられないまま学校の配慮等により中学校を卒業しているため、生活に必要な学力、日本語習得が不十分である。
- ・就学経験がないため、学習の方法や学校文化が身につけておらず、ひいては社会性の欠如につながっている者もいる。
- ・多様な国籍の生徒同士での人間関係の構築が難しく、また、新渡日者の中には、日本社会で尊重されている細やかな感性に慣れていない者もいる。

【大阪市立文の里中学校】(学習指導に関すること)

義務教育の就学年数や入学目的の異なる生徒個々の状況に応じた教材作成及び、より効果的な指導法を調査・研究し、生徒の学力向上に資する。

(課題)

- ・高齢の生徒に対する効果的な学習指導
- ・日本語の習得度が低い生徒に適した学習指導

(その課題を持つこととなった背景等)

- ・様々な年齢層、国籍、就学年数の異なる生徒が在籍することから、生徒の日本語習得や学習の習熟度に差がある。そのために、効果的な教材作成や指導方法を探る必要がある。

2 調査研究の成果

【大阪市立天満中学校】

(1) 本年度の取組について

前述のねらいを達成するため、本年度は、教員研修と情報収集を柱に、次のような取組を行い、実践に結びつけた。

①教員研修

- ・通年 国語科担当者が全員集まり、外国人生徒が多数集まる学級での国語科指導法について協議し、実践に結び付けた。
- ・通年 近畿夜間中学校連絡協議会の中で、各教科・領域ごとに課題を出し合って検討した。
- ・通年 市内の他の夜間学級で行われた公開授業を参観し、教科指導法を学んだ。
- ・5月 市内の夜間学級が昼の生徒との交流活動の実践報告の研修に参加し、人権教育の観点から夜間学級のあり方を学んだ。

②情報収集

- ・11月 全国夜間中学校研究協議会全国大会(於:東京)への参加。
東京の夜間学級の実態を学び、本校での今後の活動の進め方について参考にした。また、生徒同士の交流の場に参加することで、思いや課題を共有した。

③授業実践

- ・研修や情報収集で得た情報を教職員の間で共有し、学習内容や指導法の改善をした。その際、教科担当の枠を離れてのチームティーチングや、免許外申請を行ったうえで、他教科の指導に参画した。
- ・文集作成を目標に、年間を通じて計画的に指導を続けた。その結果、文字獲得の成果を実感し、

さらには自己表現の場を得ることで自尊感情へと結びつけることができた。

(2) 改善充実の成果について

- ・研修を通して、生徒個々の幅広い教育課題の解決法を学んだ。夜間学級の教科指導については、実践報告の文献等の資料が少ないため、夜間学級相互の交流の場で有意義な研修ができた。
- ・本校は「体験発表」「音楽・舞踊の発表」「作品展示」等の行事で昼の生徒との交流を続けており、他の夜間学級での学習活動時の交流報告や授業参観を通じて、教科担当者の意識改革につなげた。
- ・生徒の交流の場では、人前で意見表明をするなど、義務教育での経験を体験できた。また、その体験で自尊感情を得ることで、夜間学級で学ぶことの大切さを再認識できた。

【大阪市立東生野中学校】

(1) 本年度の取組について

前述のねらいを達成するため、本年度は、研究授業と情報収集を柱に次のような取組を行い、実践に結び付けた。

① 研究授業

- ・1月 全教員が各教科の指導案を作成し研究授業を行った。教員が相互に授業参観を行い生徒の実態に合った教材の準備とその指導方法について、意見交換をした。今後の教科指導や学習内容の改善、充実を図った。

② 情報収集

- ・12月 全国夜間中学校研究大会京都大会への参加
教員2名・生徒2名が参加して、交流と意見交換を行い、自己表現力等の育成方法・教材開発についての情報を得ることができた。

③ 授業実践

- ・学習の評価や収集した情報を活用して、学習内容の充実と学習教材の開発を行った。
- ・より豊かなコミュニケーションに必要な日本語の学習を重点的に行うため、文集指導を通じて、日本語能力の育成と学習意欲を育てる教育活動を行うことができた。

(2) 改善充実の成果について

- ・文集指導を行うことによって、生徒の内面に深く関わることができ、生徒理解にもつながった。
- ・研究大会の参加によって、生徒の自己表現力の育成や教材の開発について、教員間で研究・考察していくことができた。
- ・きめ細かい指導を継続することによって、生徒の学習意欲の向上に効果があった。

【大阪市立天王寺中学校】

(1) 本年度の取組について

前述のねらいを達成するため、文集「わだち」の製作とその発表、詩教材をもとにした群読指導を柱に、次のような取組を行い、実践に結び付けた。

①文集「わだち」の取組

- ・4月 文集「わだち」実施の年間計画を協議し、共通理解した。
各中学校夜間学級の文集を収集し参考にした。
- ・11月 国語科・学級活動等で「わだち」作成の取組を行った。

- ・2月「わだち」をもとに「語り合う会」その他で発表・意見交流を行い、生徒個々の表現力の涵養を図った。義務教育年齢の頃に、戦争や貧困、病気、差別、家庭事情等の理由により学ぶ権利を奪われてきた過去を持つ生徒たちにとって、その当時を中心とした自分史を発表したり、それを共感とともに受け入れられたりする経験は、自尊感情をはぐくみ、「生きる力」の源となる。
- ・通年にわたり、日本のことばや文化、習慣に触れさせることで、生徒の日本での生活に役立つ取組を推進した。

②教科学習に必要な基礎的日本語習得

- ・年間を通して、国語の習熟度別少人数授業と日本語補習を行った。しかし、日本語指導専門の教員がないので、指導方法や教材活用など、指導に対する限界も見られる。
- ・12月 全夜中研東京大会に2名の教職員が参加
全国から集まる参加者や教員との情報交換を通して、先進校の取組を学ぶとともに本校での取組の特質を学び、今後の本校のあるべき姿を模索した。昨年12月に「義務教育の段階における普通教育に相当する教育の機会確保等に関する法律」が制定されたこともあり、今後の夜間学級の方向性について、例年以上に考えさせられる大会となった。

③授業実践

- ・1・2学期に昨年度までの「わだち」を教材として、教科指導・学級活動に活用した。
- ・生徒の学力差、年齢差に応じて、習熟度別少人数授業や入り込みを行った。
- ・国語の時間に詩の教材に触れさせるとともに、国語科のみならず、生徒全体の取組などでも群読等を行うことで、国語以外の教科でも日本語に慣れ親しむ取組が進められた。そのほか、日本での生活に必要な文化・情報などについて学習させたりすることで、細やかな情感の感得、日本語の表現力の向上に努めた。

④研修

- ・毎学期、生徒情報交換会・日本語担当者会を行い、一人ひとりの実態把握や指導方法について意見交換を行った。
- ・10月に講師を招き、人権学習会を実施し、日本における外国籍の人々の思いと現実的課題を生徒とともに全校で再認識した。

(2) 改善充実の成果について

- ・全教員が日本語指導に関わることで、外国籍生徒の思いに触れることができた。それらが、教育相談等の生徒理解の充実にもつながっており、よりきめ細かな生徒対応ができた。
- ・教科学習での理解度はともかく、授業をはじめとする学校生活全般に対する満足度が例年同様、大いに高まっている。
- ・学校行事への生徒の積極的な参加が見られ、初めて体験する行事でも興味深く参加していた。
- ・健康面での生徒情報の共有や授業・学校行事での配慮により、校内では大きな事故はなかった。しかし、校外では生徒が今年も自宅または入院中に病死している。独居生活をしている生徒も多く、孤独死という状況も視野に入れる中で、民生委員やケースワーカー等外部の諸機関との連携の必要性も、今後、さらに増している。
- ・自らの過去を「わだち」で発表することが、同じ思いを持つ仲間から受け入れられるという意味で、生徒間の人間関係の改善に大いに役立っている。また、未就学により社会の差別や偏見を受けてきたつらい過去を乗り越え、社会に真正面から向き合う成長を見せている。さらに、日本の

社会での常識的な考え方や生活の仕方を伝えることもできた。

【大阪市立文の里中学校】

(1) 本年度の取組について

前述のねらいを達成するため、本年度は、教員研修と授業実践を柱に次のような取組を行い、実践に結びつけた。

① 教員研修

- ・ 5月、7月、12月に「教材・指導法検討会議」を開催し、生徒個々の実態把握と教材作成や指導方法について、意見交換をした。

また、学期ごとの反省と課題の確認を行うなど、学習指導や学習内容の改善・充実を図った。

② 情報収集

- ・ 年間を通じて、近畿夜間中学校連絡協議会教材作成委員会等に参加し、教材作成についての情報収集と意見交換を行い、成果を得た。

③ 授業実践

研修や収集した情報を活用し、多様な学習内容と教材を準備し、全教科学習の基礎となる日本語学習を重点的に行った。学級内における生徒の習熟度の差に対応するため、複数教員によるチームティーチングを取り入れ、きめ細かな指導で、学習意欲の高まるわかりやすい授業づくりに結び付け、多様な日本語の表現方法を学ばせ、語彙を深めさせ、文章を綴り、生徒自らの思いや考えを伝える生徒文集「雫」を作成し、発表会で朗読させ、日本語学習能力の向上につなげた。

(2) 改善充実の成果について

- ・ 研修により、生徒個々の状況について全教職員の共通理解を図ることができ、より個に応じた指導を推進することができた。